



# ぶどうのささやき

18号

2014年  
7月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## 「サードセクター」と「社会的ハロー効果」への期待

木下武理事長のご友誼によって、産業クラスター研究会の集いに何度か参加させていただきました。私は、理工系の出身でもなく、中小企業の実情にも疎いので、研究会の活動内容については解らないというのが正直なところでした。しかし、集いに参加すると、私と同じシニアの皆さんが生き生きとしておられ、こちらも元気になるのです。なぜだろうと考えていて、フランス人のリピエツ氏書いた『サードセクター』という本のなかに、「社会的ハロー効果」という言葉を見つけましたので、紹介させていただきます。(リピエツとは氏が来日された折、2人で工場見学に行ったことがあり、この本は訳者の井上泰夫氏からご恵贈いただきました。)

本書でいう「サードセクター」は、これまで市場セクターよっても行政セクターによっても十分には充足されてこなかった需要(環境保全、若者の社会統合、児童や高齢者の手助け、地域の活性化など)を充たそうとする新しい部門を指します。財政支援を受け非営利的であるという特徴をもちますが(日本語の「第三セクター」という言葉はこの側面に注目)、リピエツは、その活動目的が社会と地域への貢献にあり、また働きがいや生きがいを求める市民の自発性に基いて行われることに注目します。まさに産業クラスター研究会のようなNPOや非営利的起業、またさまざまな市民諸団体などを広く含む言葉です。

現代経済は、先進諸国では失業や非正規雇用の増大など経済不安が増大し、他方で財政出動による危機脱出は困難になっております。また途上国の経済成長は、

横浜市立大学名誉教授

千賀 重義



食料とエネルギー需要を激増させその不足は必至で、これまでのように、生産拡大主義では将来展望は描けなくなっています。さらに現代社会は、家族の有り方が変容し、若者や高齢者の単身世帯が急増するなど、人々がかつてないほど孤立し孤独になっています。

そうしたなか、人々の新たな働き場所、新しい生き方を提供する部門として、サードセクターの重要性が高まっています。とくにリピエツが注目するのが、サードセクターは「社会的ハロー効果」をもっているということです。「ハロー効果」とは、字が上手な人はその人格まで輝いて見えるといった後光効果を指す用語です。サードセクターは、それが提供する財やサービス自体によってばかりでなく、その活動が自発的に、生きがいをもとめ、また互酬的に(私が今日何かを提供する、あるいは何かを行えば、いつの日かコミュニティがお返しをしてくれると考えて)行われることによって、その活動を光り輝かせ、人々に元気を与え、社会的連帯を呼び起こすというハロー効果をもつというのです。

産業クラスター研究会の輝きに期待します。

## クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

## 平成26年度活動方針について

平成25年度は設立10周年を迎え、記念行事を始め、市民協働推進セミナーの開催、広報活動の展開など積極的に活動をしました。皆さまの絶大なご支援、ご協力によりそれぞれ一定の評価を得ることができ、あらためて感謝いたします。

今年初めに報じられた経済産業省の「産業クラスター」再始動政策は技術力のある中小企業を中心とした産学官のネットワーク形成に力点を置くこととあります。同じく「産業クラスター」を標榜する私たちは、その延長線の中で地域経済の活性化という目標に向かって、日々課題を抱える中小企業の皆さんの経営改善や業績向上のお手伝いをし、そしてそのことが次の改善や展開を生むことに繋がって行くことを期待して活動していきます。

設立10周年ということで、平成26年度は私たちの活動も新たな段階を目指すスタートの年度と位置づけており、上記基本を踏まえ具体的には以下の方針で取組み中です。

### (1) 支援企業の拡充及び活動地域の増強を図る

再整備した支援メニューを基に、数の増大と地域拡大の両面で支援実績の水平展開を図る。

### (2) 地域社会への環境改善(省エネ)の啓蒙と推進支援活動の強化を図る

- ① これまでのEA21の認証登録やISO認証取得支援の拡大と環境・省エネに関する小中学校への啓蒙活動を行う。
- ② 昨年度より開始の横浜市立大学CSRセンターLLPよりの委託事業の継続
- ③ 法人会員の環境商品の販路拡大の支援

理事長 木下 武



(3) 認定NPOとして、「新しい公共」の活動促進を行う講演会・セミナーの企画・開催と行政協働事業の受託を通して市民との交流及び当会の紹介を展開する。

### (4) 行政、大学、NPOなどからの業務委託事業の獲得と拡大を目指す

行政の協働推進事業や業務委託事業に積極的に応募する。また、行政の中小企業へのさまざまな支援策を法人会員に紹介し、応募の支援をする。

### (5) 活発なPR活動を行い、法人および個人会員の増強を図る

会報誌とホームページを媒体に当会のPRと会員募集を図る。ホームページ拡充の一環として行政や各団体が主催する行事の紹介を新しく「まちかど情報」としてアップする。

### (6) 他団体との関係促進を行う

地元団体や「横浜市協働事業の交流会」が企画するイベント・行事に参加し、情報交換や協働事業に相互に対応する。また、各地商工会議所との連携を深め共同事業に積極的に対応する。

これまで以上に経営者交流会や個人会員交流会を開催し、明るく、楽しく、懇談・勉強する場を随時取り入れながら計画を確実に推進していきますのでより一層のご支援・ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

### 【歳時記】 茄子

「夏が来て、茄子が出回るようになって、よく洗って薄切りにし、塩でもみ、更に醤油を落として食べる。この茄子が、旨くて旨くて、たまらないのだ。」これは私の好きな作家の池波正太郎『味と映画の歳時記』の一節である。

池波正太郎は、何時、どこで何を食べれば良いか知り尽くした上で作品の中に登場させる。試写会の帰りには神田の「まつや」で蕎麦を食べていたようだ。それも天ぷらそばの天抜きにお酒を二合、燗酒である。但し、池波が店に入るのは昼時分を一寸過ぎた頃。「店の忙しい時に面倒なものを注文してはいけないよ。」「客にもエチケツトというのがあるね、板さんや料理人は、チョットでも旨いものを食べたいという気持ちがある、それをありがたく頂くのが本当の客だよ」と作品の中で無粋な客を戒めている。

小生には会社からの帰りが遅くなった時に、寄る小さな洋食屋がある。此処のメンチカツが素晴らしく旨い。いやメンチカツの上のデミグラスソースがこれまたうまい。何時も「メンチカツにビール」と注文をする。すると厨房の中でご主人が顔を上げニコツとしビョコツと会釈する。こちらも手を上げニコツとする。まだ一度も言葉が交わしたことのないご主人だが、これだけで、一日の疲れが取れる。熱々のメンチカツを飲み残しておいたビールで流し込む、これも旨い。レジではおかみさんが「主人がよろしく」と言ってます、と厨房の方を見ながら言うが、ご主人は調理に夢中である。近くのテーブルを見て小声で「早く食べてくれれば良いのにな」と一言。この頃は、おいしい店を食べ歩きする女子が多くなったと聞く。そんな女子が料理を写真に撮る。料理人としては、出来立てを、食べて欲しいのだが、注文した料理が全部出揃うまで箸をつけずに待っていると言う驚きである。旨い料理を食べに来たのではなくて写真を撮りに来たのか、そんな女子三人連れが此処にも居る。

今、この洋食屋へ行くのは、足遠くになってしまったが、今でも「メンチカツとビール」と注文をすると厨房の中からご主人がこっちを見てニコツとする。又旨い料理が食べられそう。おやつさん元気でなにより、と思う。今日も暑い日になりそう。うまそうな茄子を探して、到来物の酒で一杯やるか……

なお、茄子の絵は著者作品。(梯)



## 法人会員紹介

### 昭立工業株式会社

業種：板金加工及び産業機器製造業

創業：昭和40年8月

代表者：代表取締役 鍋木 亨

〒223-0058

横浜市港北区新吉田東 8-39-10

TEL： 045-541-5671

FAX： 045-544-4879

URL： <http://www.shoritu.com/>

## 製造業の50年

### 創業の頃を思う

創業は昭和40年。横浜市港北区新吉田町で製缶板金業として、株式会社横河電機製作所、北辰電機、山武ハネウエルのデスク型計装盤を製作。当時は39年に新幹線が東京、大阪間を開通したばかりで新横浜駅ができ、当社から見えるほどの田園地帯でした。準工業地と言われて購入しましたが、電気は申請すればすぐ引けましたが、電話、水道は1年あまり引けないありさま、今思えばかなり事情が悪い所で工場の設備をいたしました。

中古のプレスブレーキ、シャーリング、アーク溶接機に職人5人で4.5mmの鋼板を酸素で穴あけ切断、高さ2,300mm、幅1,500mm、奥行1,800mmの計装盤を1現場20面から60面、三井油化、昭和石油、出光興産、ウジミナス、東海村原子力、等向けに製造をしておりましたが、時代は日々新しい設備に変わり、センタム(机の上で操作出来る装置)へと変化してまいりました。



時代の流れには勝てません。製造業である以上、ステンレス、アルミ、チタン、精密板金から製缶まで何でも出来て、客先に使い勝手の良い工場であれば生き残れると考えました。しかし思うように仕事が入ってきません。

### 疑問が新たな事業を生む

たまたま工場の電気代が高いのに疑問を持っていました。アメリカの1.5倍、カナダの2倍、先進諸



フィルム巻取機

国では一番高い電気代になります。考えられることは、設計事務所も電気工事会社も安全を見てトランス容量を多めに決めていること、電力会社はトランス容量で基本料金を換算していること、の2点です。当社のトランス容量を少なくすれば基本料金は安くなることに気づき、適正な容量に落して見ましたら基本料金が月10万円安くなりました。



代表取締役 鍋木 亨

そこで専務に工場を任せ、昭和62年東京旗の台にて省エネの事業を開始。電気主任技術者の資格は持っていました。公立学校・私立学校、ビル所有者、工場経営者等約3千数百箇所、多くの企業・学校等の電気料金の節約に貢献することができました。その後、東京電力始め九電力会社もトランス契約から実質使う電気容量のピークを基本料金(デマンド契約)に改めることになりました。

### 事業の拡大へ

その頃、在る巻取機の会社が倒産し従業員を数名引き取ることになりまして、工業用、家庭用のビニール巻取機、接着材付き三連式巻取機、電子素子実装基盤分割巻取機、住宅用雨戸成形用巻取機、等の生産を始めました。現在数十社の客先の開発、製造に従事しております。関連した幾つの特許を取得しておりますが、商売に繋がらないのが現実です。

製造業の強みを生かして大型レーザー加工機、ターレットパンチングマシン、150tから30tのプレスブレーキ等製造業には最小限の設備と技術を持ち、原子力発電用操作盤からコイン駐車場、ゲート式駐車場、防犯カメラケース、ステンレス等の製造製作を本業として50年の日々が立ちました。



計測制御用コンピュータ

## さらなる発展をめざして

## 海外関連事業部会

当部会の活動分野は、米軍入札関連支援、技術文書等の翻訳支援および海外実務コンサルタントの三つです。

米軍入札関連支援では、①翻訳（和文⇔英文）、②通訳（和⇔英）および③コンサルタントを行い、技術文書等の翻訳支援では翻訳（和文⇔英文）をし、海外実務コンサルタントの場合は企業が海外取引を始めたり海外進出を図る際に相談に乗り助言することです。

実績を紹介しますと、米軍入札関連支援においては、翻訳では工事説明書、仕様書、図面、計画書、見積書などがあり、通訳では、会議、工事現場、立会検査など、殆どは受注後に必要になるものです。コンサルタントでは、安全衛生計画作成、対応が必要な規格等の取捨選択などです。技術文書翻訳支援においては、インドネシア税法、注文書、守秘義務等契約書などの和訳、そして見積書、請求書、仕様書、図面、契約書、品質マニュアルなどの英訳です。海外実務コンサルタントにおいては、東南アジアを中心とする現地法人会社の経営に長年携わってきた海外駐在経験者も3名おり、現地法人設立、技術援助契約作成、販売戦略作成、現地代理店網構築など海外実務支援の要請を期待していますが、残念ながら実績という程のものはありません。

翻訳の場合、支援依頼をいただきますと、部会長は各协会会员と相談しながら分担と作業仕上日時を決め、でき上がって集まってきた作業を精査し纏めて依頼先に納品します。ここ数年部会員は実質的に5名ですが、作業能力において特に支障はきたしておりません。一方、通訳・

コンサルにおいては、担当できる部会員が限定されているという現状が少々懸念されます。そういった中、週末とか連休前に翻訳依頼が入ってきて、納期が週明けあるいは連休明けと言う場合が珍しくなく、言わば曜日・時間を問わない活動を当部会は行っているといえます。

一方、翻訳品質の向上は大事なことと認識しています。当部会は月2回開催しておりますが、そのうち一回は全部会員出席を must としております。このところ中断しております勉強会を再開し、この日に行うことを考えています。部会員全員相当の資質を持っていますが、それに磨きをかけて行きたいと考えています。

ここ3年の支援量の傾向は、翻訳においては減少、通訳およびコンサルでは増加となっておりますが、全体としては停滞気味と言わざるを得ません。この状況を打開することが求められています。それには支援先を増やすことが唯一の方法と考えています。この種のニーズは創造することができず、また既存支援先のニーズは全てカバーしているのが現状だからです。今後、全員出席の部会でPDCAを回し成果を挙げて行きたいと考えています。

それに相応して部会員の増加も必要になってくると考えています。当部会は、当会発足と殆ど同時に発足してほぼ10年、チームワークを大事にしながら和気あいあいと活動してきました。このような当部会の活動に興味をお持ちになったシニアの入会と中小企業さまからの支援要請をお待ちしています。

(部会長 近藤 勝彦)

### 事務局からのお知らせ

1. 去る2月19日、メルキュールホテル横須賀にて10周年記念行事を開催し、横浜市立大学 影山摩子弥 教授の特別記念講演会と懇親会を行いました。多数の皆さまにご参加いただきお蔭さまで盛大な会となりました。ありがとうございました。
2. 平成25年度 第4回理事会が3月26日に開催され、平成26年度活動方針と行事計画が承認されました。同時に25年度の活動計算書案の報告と10周年記念行事の収支報告がなされました。
3. 4月15日 経営者交流会が開催され、日本電子エンジニアリング(株)の高橋社長と吉田部長による「スマートフォンの現状と弊社開発製品」と題した講話があり、参加会員で賑やかに懇談しました。
4. 平成26年度 第1回理事会が5月21日開催され、平成25年度の決算案の承認と平成26年度予算案の承認がなされました。
5. 5月27日 平成26年度通常総会が開催され、平成25年度の決算案の承認、平成26年度予算案の承認及び新任理事の承認がなされ総会は滞りなく終了しました。そのあとさきやかに懇親会が行われました。
6. 新規入会者の紹介  
個人会員 立林 恭一 (鎌倉市在住)、妻鹿 恒雄 (葉山町在住)
7. 訃報 (謹んでお悔やみを申し上げます)  
個人会員 大久保 全勝 (6月10日)

(事務局 佐々木 興吉)

## WordPress は何がよいか

広報部会

広報部会の主要活動項目の一つが、当会のホームページ (HP) の更新と運営です。当会は、2008年5月に WordPress を導入しホームページをリニューアルしました。その理由の一つが、作成したコンテンツの管理が困難になったことでした。爾来、OS の開発をしてきたが、ホームページの知識のほとんどない者が、当会のホームページの更新と運営を担当することになり、WordPress の使い易さに助けられてその重責を担いつつありますが、その体験を通じて感じた「Wordpress は何がよいか」ということをご紹介します。

### WordPress の導入が多い理由

WordPress の導入が多い理由として、一般的には次のことが言われています。

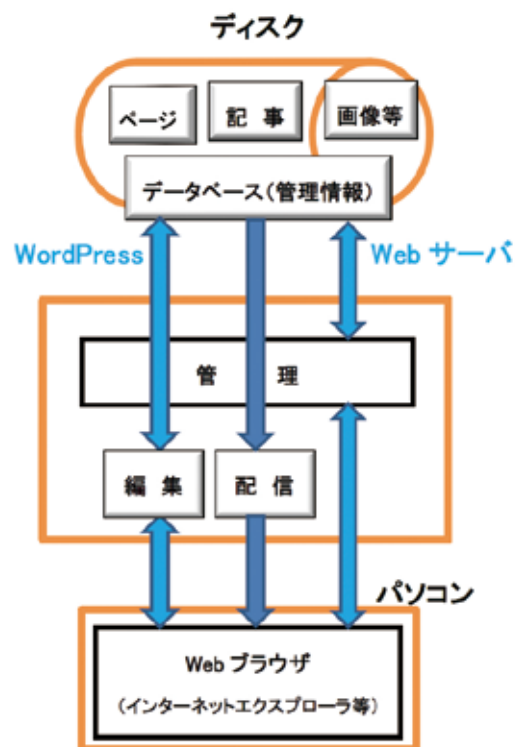
- (1) シェアが高く事例が多い。W3Techs (World Wide Web Technology Surveys) の去る6月1日の発表によると、シェアは22.3%(トップシェア)。CMS(Content Management System、Web サイトのコンテンツ編集・管理ツール) という新しいタイプのツールに限定すると60.1%で過半数を占めています。
- (2) オープンソースのツールであり特定メーカーに依存しません。また、ライセンス費用がかかりません。
- (3) バージョンアップが早く進化し続けています。
- (4) 汎用的な技術を使って開発するとともに、顧客指向の開発姿勢を貫いています。
- (5) 他のツールに比べて日本語化が進んでいます。

### WordPress は何がよいか

前述の導入理由は重要ですが、使い勝手の側面から、「WordPress は何がよいのか」を具体的に紹介します。

- (1) WordPress はブログ系統のツールで、HP 制作に関する専門知識がなくても文章や写真などのコンテンツを簡単に作成または編集できます。
- (2) 作成または編集したコンテンツは、その場でプレビューしてテスト確認ができるので、それを繰り返しながらコンテンツをより良いものに上げることができます。
- (3) WordPress は、コンテンツが保存されているサーバ上で動作し、Web ブラウザを介した

- 実端末環境を使用してプレビューするので、実表示物を見ながらテスト確認ができます。
- (4) 作成したコンテンツは、データベースに登録され一覧表として管理されるので、検索が容易です。
  - (5) また他のサイトなどからアクセスできるように、配信用のディレクトリ構造管理が自動的に行われるので、管理負担が軽減されます。
  - (6) コンテンツは、下書き、レビュー待ち、公開の作成過程の状態が管理でき、公開承認のフロー管理を行えるので、コンテンツの正確性、秘匿性の検査体制をとることができます。
  - (7) 下書きまたはレビュー待ちの状態のコンテンツは、他者からアクセスできないので、迷惑をかけずにテスト確認を行えます。
  - (8) コンテンツの自動保存機能があるので、誤ってコンテンツを破壊しても容易に復元できます。



なお、広報部会でホームページの更新や運営で習得した技術や知識は、企業支援事業部会のホームページの制作・更新の事業に活かしております。

(部会長 新井 全勝)

## トピックス

## 「第1回 金沢区環境にやさしい活動表彰」受賞

## 金沢小学校でのエコ教育 (EE21) の実績が評価される

去る6月30日、いきいきセンター金沢に於いて、「第1回金沢区環境にやさしい活動表彰制度」の表彰式があり、当会は、横浜市立金沢小学校で昨年4月から本年3月までの1年間実施した「エコ教育 (EE21、エコ・エデュケーション21)」の実績が評価され、表彰されました。

本制度は、同区内の環境にやさしい活動のうち、先駆的、模範的にかつ顕著な成果があった活動に対して表彰を行うもので、EE21は環境教育を小中学校を対象に行うものです。



この教育の特徴は、いわゆるスポット的な教育ではなく、年間を通して全児童、教職員そして技術員全員が共同社会生活をする中で生活習慣としての共通的な「環境と省エネ」の意識目標を持って取り組む教育であり、学校内でゴミを少なく電気や水を大切に使うなど、「環境と省エネ」に関して工夫の余地のあるものを見つけ、改善・対策・実施を通じて体験的に学習したことを、家庭そして地域に広げていったことです。

教育の柱としては、①ゴミの分別、②電気、水の節減と燃えるゴミの減量化、③環境に関するテーマ (3R、3S、太陽光発電 (ソーラーパネル)、省エネでLED等) の教育、を実施しました。児童は、この生活習慣を6年間継続的に身につけていきます。この身につけたものを、家庭で地域でそして社会人としてさらに磨いて行くことを期待するものです。

(環境事業部会 副部会長 金子 賢一)

## 座学+ワークショップで新製品などの記事掲載・報道実現を目指そう！

当会は平成26年度において、横須賀、三浦、横浜などの中小企業の皆さんに対して、より積極的に広報支援をしていきます。まず社員の皆様にPPTを使い広報力アップ講座を実行、広報と広告の違い、5W5Hなどプレスリリースの書き方といった「座学」をしっかり学んでいただきます。そして広報案件をじっくり議論し、戦略を立てます。その上で当会専門家と一緒にプレスリリースを作成、記者クラブ、地元マスコミを訪問し、説明と記事掲載を要請する「ワークショップ」を行います。今はやりのFACEBOOK、TWITTER、BLOGといったソーシャル・ネットワークング・サービスは若い社員の皆さんが担当してください。

この手法は昨年9月から12月まで実施した「横須賀市市民協働推進セミナー・広報力アップ講座」で実施、期間中から記事掲載が数件あり、参加された市民公益団

体活動家から注目されました。このような広報力アップ講座は横浜、東京でも様々な企業、団体が数多く行っていますが、ほとんどが座学で終了しています。当会ではマスコミ・広報歴49年、現役最高齢・戦略広報マネージャー (73歳) が「座学+ワーク」を実行、これが評価されています。広報は高い費用が発生する広告と違い、経費がかからずマスコミ記者という第三者のチェックを受けて実現するものです。販路開拓、ブランド向上、社員のやる気を引き出すなどのメリットがあり、挑戦の価値が十分にあります。



記事掲載の一例

(広報部会 平野 和夫)

発行：内閣府認証・国税庁認定 NPO法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 / 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

Tel : 045-781-8025

E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武